

第3回ブロードバンド特別シンポジウム  
「3.11」とICT～大震災が問う日本の情報通信インフラ～  
第1部：危機対応を促すソーシャルメディア

# ソーシャルメディアは何を担えるか

庄司昌彦 (Masahiko SHOJI)

国際大学GLOCOM 講師／主任研究員

shoji@glocom.ac.jp

# 個人との連絡手段として活用

- 安否確認の一手段として活用
  - パケット交換の強さ
  - アクセス集中でもダウンせず
  - 不安感とコミュニケーション欲求
  - 最も使われ評価されたのはメール・SMS

- 3.11のTweetは1億7,700万
  - 前月比3,700万増、直前比500%増
- 5度、5000Tweet/sec超
- 3.12に572,200アカウント新設
  - 前月比112,000増

- 教訓：個人との連絡手段を確保し、複数化する
  - 家族間
  - 住民＝行政間（→プッシュ型情報提供）

# メディアの地域・民間・複線化

- 「地域」である意義
  - ハイパーローカルな生活情報へのニーズ
- 「民間」である意義
  - 行政が手を出しにくい「不確実な(リスク)情報」の提供
  - スピードと柔軟性
- コミュニケーション手段の「複線化」
  - 電波(テレビ、ラジオ)、紙媒体(新聞、雑誌)、固定電話、携帯電話、SMS、メール、ソーシャルメディア、対面
  - コミュニティFM局が核となる可能性

# 協力・動員のメディアとして活用

- 自発的な協働
  - ヤシマ・ウエシマ作戦(買占め防止)、義援金、Person Finder、Sinsai.info(地図)、
- 政府のデータ公開と国民による活用
  - Open Government
  - 経済産業省・LASDECがPDFではなくHTMLやCSVでの情報提供を要請
  - 政府や東京電力等のデータを活用した自発的アプリ開発が国民の情報入手に貢献

